

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

「瑛玖良」の精神 ～ともに きらきら かがやこう～

校長 澁谷 一男

3階教室から遠く二王子岳を望むと、山頂近くの残雪は日に日に少なくなり、蒼い山肌と稜線がくっきりと浮かび上がっている。吹き渡る風は、いつしかさわやかな初夏を思わせる風となった。

遡って4月6日、始業式。桜のつぼみもまだ硬い肌寒い朝、学校の主役たちが登校してきた。長い休み中いつも感じることだが、子どもの声が聞こえない学校は、物寂しいものだ。子どもたちの元気な声と明るい笑顔が帰ってくると、学校は一瞬で本来の姿を取り戻す。職員の気持ちも一気に高揚する。私たちは、新年度の準備を進めながら、この日をどれだけ心待ちにしていたことか。



新年度、子どもたちを迎えるに当たり、猿橋小学校の合言葉「ともに きらきら かがやこう」を職員と再確認した。この合言葉には、「瑛玖良」という建学の精神が引き継がれている。子どもも、教職員も、ともにきらきらかがやく「瑛玖良校」を今年度も目指したい。

「ともに きらきら かがやく 子ども」とは、向上心をもち、友達と学び合い、自分の成長を自覚できる子どもである。「ともに きらきら かがやく 教職員」とは、教育に対する使命感をもち、子どもたちの成長、未来のために惜しみない支援ができる教職員である。

このことを踏まえ、職員には子どもを大事にした教育をしようと伝えた。子どもの成長の仕方は一人一人異なる。子どもに寄り添い、声にしっかりと耳を傾けながら、子ども一人一人をしっかりと理解する。その上で、その子の成長のために、今、何が必要かを見極め、指導する。それがプロとしての教師としての務めであると。

始業式では、進級の喜びと決意に満ちた子どもたちの姿があった。少し緊張した面持ちで、静かに、目をしっかり向けて話を聞いている。先生方は、みんな一人一人を大事にする。そして、自分の今ある力をともに伸ばすために全力で応援する。子どもたちにそう約束した。

明けて入学式。この日の主役たち113名を皆で迎えた。うれしそうにはしゃぐ子、不安そうな表情の子など様々だが、いずれにしても、猿橋小学校の主人公たちが勢揃いした。それにしても、式に臨む態度の何と立派だったことか。大勢の中で緊張もし、騒ぎたくもなったであろうに。この緊張感と喜びを大事にしていきたい、心からそう思った。

季節はもうすぐ新緑の初夏。若葉のように輝く672名の子どもたちが自分の芽をぐんぐん伸ばし、「ともに きらきら かがやく」よう、全教職員が力を合わせて進みたい。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。